



# あけましておめでとーびじぞーります

善照寺住職 今 岡 達 雄

皆様、明けましておめでとーございます。

昨年から発行し始めた寺報も、丸一年経って五号になりました。正月になると否が応でも病気のことを思い出します。正月四日からの年始回りの途中で胸痛に襲われ入院を余儀なくされたことです。このために昨年

からは年始回りを省かせていただき、その代わりに寺報を発行することにしました。

今、寺報を書きながら何か申し訳ない気持ちで一杯です。それは、暮れの寒い時期に冷たい水で墓を掃除し花を供え、先になくなつた方々と共々にお正月を迎える準備をしている皆様の姿を見ているからかもしれない。せめて新年になつたら皆様の家を一軒一軒回つてご挨拶をするべきでしょう。つい最近までは出来ていたのですが、それも出来なくなつてしまつたからであると思います。それでもな

善照寺 寺報 **ぜんしゅうじ**

第5号

〒272-0131 市川市湊十八番二十号 善照寺

電話 四七(三五七)二二三三二

FAX 〇四七(三九七)一三三二

お住職を引き立ててくれる皆様方に感謝する次第です。仏様のご加護と、そのような皆様のお陰をもつて曲がりなりにも一年を過ごすことが出来ました。また、回遊展のような市川市の行事にも参加させていただき地域の皆様ともお近づきになる機会が出来ましたことは、大変喜ばしいことと思います。

本年三月十五日には、増上寺成田大僧正台下が参加される檀信徒大会が幕張で開催されます。善照寺からも十数名の参加が要請されています。法然上人の八百年大遠忌に向けて、これからは善照寺内の行事ばかりでなく浄土宗の開催する行事への参加要請も多くなっていくと思われます。今後とも相変わらぬご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。今年一年が、阿弥陀様の光に照らされた明るい一年でありますよう祈念いたします。

合掌、南無阿弥陀仏

## 年間行事予定

平成十五年善照寺の年間行事の予定は次の通りです。皆様方是非ともお参りいただければ幸いです。

**初念仏会** 一月十七日(金)

一時 法話 二時 法要

お彼岸春(三月十八)廿四日)

お盆 東京(七月十三)五日)

地元(八月十三)五日)

**施餓鬼会** 八月十七日(日)

一時 法話 二時 法要

お彼岸秋(九月二十)廿六日)

**お十夜会** 十一月十七日(月)

一時 法話 二時 法要

暮れ 十二月下旬

除夜の鐘 十二月三十一日

夜十一時三十分位から始めます

## 住職法話

## 世界に共生を

皆様にお配りしている浄土宗月訓カレンダーの一月を開けていただきますと「世界に共生を」と書かれています。浄土宗では二十一世紀が始まるに当たって、劈頭宣言という四つの標語を掲げました。その一つに「世界に共生を」があります。

- ・ 患者の自覚を
- ・ 家庭にみ仏の光を
- ・ 社会に慈しみを
- ・ 世界に共生を

私たちは、自分だけは違つと強がつてみても、よく考えてみますと愚かな者です。お酒もたばこも体に良くないとは分かっています。止められませんが、一時の享樂のために高利の金を借り土地も家も失ってしまいま

す。そして、他人や社会が悪いと自覚して自ら反省する事をしません。私たちは仏様ではありませんから、愚かなことをしてかすのをやめることが出来ません。しかし、私たちは愚かなことをしてかすてしまふ愚者であることを自覚することぐらいは出来るでしょう。これが「患者の自覚を」です。

私たちの生活は仏様によつて導かれた明るい生活であるはずで、光は全ての人々に分け隔て無く降り注いでいるのです。が、愚かさに曇つた目では光を感じる事が出来ません。仏様はいつでも私たちに救いの手を差し伸べているのですが、愚かさに曇つた目にはその手を見る事が出来ません。自らの愚かさを自覚し、愚かさによる目の曇りを取り除き、仏様の光を感じる事の出来る生活。これが「家庭にみ仏の光を」です。

人間は一人では生きていけません。多くの人々が支え合いな

がら毎日を暮らしています。しかし、私たちはこの支え合いを忘れてしまいます。自分自身が受けている恩恵を当たり前のこととし、他の人々への恩恵となることを出し惜しみします。仏様、菩薩様は自分自身を犠牲にしてまで、他の人々を救済することを誓ひとしています。私たちは愚かな人間ですから、同じようなことは到底出来ませんが、他人の身になつて考え行動することが必要でしょう。これが「社会に慈しみを」です。

法然上人が尊敬していた中国浄土教の祖である善導大師は偉大な詩人でもありました。阿弥陀様や極樂浄土を賛美する詩をお書きになつています。私たちも「礼讚」として節をつけて歌うようにお唱えします。そして、その締め括りは必ず次の詩句になつています。

願共諸衆生 往生安樂國  
(願わくは皆共々に、極樂浄土に往生出来ますように)

本来、共生(ともいき)とは皆で共々に極樂に往生することです。現在では自然環境保護の分野で共生(きょうせい)という言葉が使われておりその方が主流となつています。「人と自然の共生」のように使われます。これは共棲(きょうせい)とも書かれヤドリとイソギンチャクのように一つの場所ですぐに生きるということであり、浄土宗の共生とは異なる使い方です。

しかし、この世の中では人種差別、宗教差別などの種々の差別が横行しています。ですから人々が一つの場所ですぐに仲良く棲み分けることが大切です。また、自然破壊も進んでいますから、自然を破壊せず人と自然が一つの場所を棲み分けることも重要な生き方でしょう。

この世では共に仲良く棲み分け、そして命終わるとき皆共々に極樂に往生すること。これが「世界に共生を」です。

南無阿弥陀仏



### 生まれ変わりの話

謹賀新年。近ごろは寒いですね。朝起きるとついつい、お湯を出して顔を洗ってしまいま  
す。ところがただで気持ちよく  
顔を洗えるわけではありませ  
ん。不思議と、何か申し訳ない  
気持ちがありました。

先日、ある女性に尋ねられま  
した。今岡君はお寺の人だか  
ら、靈感などはあるのかと。私  
は答えました。テレビに登場す  
るような霊能者の能力は自分  
にはない。かといって、死んだ後  
に何もなくなるとも思わない。  
人は死んだあとに生まれ変わ  
るのでしょうか。そうだと  
言う人と、そうではないと言  
う人がいると思います。そう  
だと言う人は、直感でそう  
言っている人が多いよう  
です。逆にそうではないと  
言う人は、理論派の人が  
多いと思います。

を信じる方である。母が亡く  
なつたあと、一年間は夢に出  
てきて黙っていたが、一年を過  
ぎると話してくれるようになった。  
それは生まれ変わったから  
だと思っておっしゃいました。  
生まれ変わりはある  
かもしれないと私が答  
えたので、その人は心  
を開いてくれたのでは  
ないかと思えます。  
そのとき私は、その  
日の朝の電車で読んだ  
仏教書の中の話の思  
い出しました。  
自分がこの私と思っ  
ているこの私は、死  
んだらなくなる。心臓も  
脳もはたらかなくなる  
から、身体の統合がとれなく  
なつて、体中の細胞が死んでし  
まう。脳細胞が作っているこの  
自分も消える。科学の言うとお  
りである。この私が滅びずに残  
るといふのは、仏教では「無  
我」といつて否定されている。

### 仏さまからの手紙

ところが海の波はザブンと岸  
にぶつかつて消えてしまふが、  
水じたいは消えずに残る。そし  
て新しい波ができる。それと同  
じように、この私が死んで消え  
てしまつても、私の「もと」は  
残つていて、また新しい私がそ  
こから出てくる。  
その話をすると、その人は同  
意してくれました。この私がそ  
のまま別の生き物に生まれ変わ  
るとは、自分も思えないと。  
この私があるまま生まれ変わ  
るといふのは、ヒンドゥー教徒  
の考え方です。仏教ではそう  
ではなく、水と波のたとえのよ  
うに、この私の「もと」から新  
しい自分が生まれる。そのよう  
に考えなさいといふのです。

生まれ変わりなどありえない  
といふとき、私が私と思つてい  
るこの私のことだけを考  
えてお  
ると思います。ところが生まれ  
変わりがあるといふとき、この  
私とは異なるものが私となりま  
す。「私」の範囲がひろがり、  
他人が私となります。全地球の  
生物が私となります。  
顔を洗うためにガスを燃やし  
てお湯をわかすと、二酸化炭素  
を環境に捨てて、みんなの地球  
を汚染します。顔を洗うくらい  
少しいのこと。それでも誰かの顔  
を冷水で洗うくらいのこと  
はしているのです。ましてや習慣  
となつて、毎日家族全員がお湯  
をわかすようになること...。  
他人が私。全地球の生物が私  
です。私がお湯で顔を洗えば、  
次に生まれる私が迷惑をこう  
むるので  
す。  
もしそう思えたならば、何と  
やさしくなれることでしょう。  
それはまさに、仏の心でありま  
しょう。

水中にミジンコなどがうじゃ  
うじゃといるのを見たことがあ  
ると、その人はおっしゃいま  
した。あれもみんな生まれ変わ  
つていくのかなあ、と。きつと  
うだと、私は答えました。

(副住職 達彦)

## お寺との付き合い

「今まで、おばあちゃんが全部やってきたので、何も分からなくて！」

昨年は先代住職の二十三回忌でした。既に二十年以上住職をしていることに改めて気付きました。そんな中で檀家さんからよく聞く言葉がこれです。核家族化つまり結婚して世帯を分けて別々に生活をするわけですから、昔は何気なく受け継がれてきた仏様のやり方もすんなりとは伝わらなくなっています。無理もないことです。

そこで、標準的なお寺との付き合い方についてお話ししていくことにしました。何回もお話が終わるか分かりませんが、思いついたことを少しずつお話ししていきます。リクエストも受け付けます。

お盆・暮れの付届つけはけ

世間の付き合いでも世話になった方には「お中元」や「お歳暮」

の挨拶をします。最近では挨拶に伺わずに品物だけを贈ることもあるようですが、本来はお伺いして挨拶するのが正式なやり方です。寺との付き合いでも同じ事です。

「お盆」と「暮れ」に先祖代々が祀られているお墓を掃除し、花を供えて先に無くなった有縁の人々にご挨拶をします。ご本尊の阿弥陀様にもご挨拶しましょう。そして、先祖代々の諸霊をお守りしている寺にも挨拶を欠かさないようにならねばなりません。

丁寧な方は、それぞれ「お中元」「お歳暮」と書いた付届(包み物で金額は平均で五千円程度です)に菓子など付けてご挨拶にこられます。

またこれとは別に、善照寺ではこの時期に「墓掃除代」という名前での墓地の管理料をいただいています。墓地全体の除草や清掃を行うための費用を負担してもらおうのが墓掃除代です。地元(押切、湊、湊新田、香取)の方々には善照寺青年会の担当者が集金にお伺

いしてはいますが、遠方にまで伺うことが出来ません。集金に伺っていない地域の方々には、ご挨拶の時(お盆・暮れの年二回)と一緒にお納め下さい。

## 年中行事と定例行事

お盆・暮れ以外の年中行事には、春と秋に「お彼岸」が有りまします。今日では墓参りが中心と受け取られていますが、昔は住職が皆様方のお宅にうかがいお経をあげたそうです。最近では寺の本堂でまとめて供養しています。寺には盆暮れ同様の付届をするようです。

善照寺には年三回の定例行事があります。「初念仏会」、「施餓鬼会」、「十夜会」です。法要についてはその都度ご案内申し上げます。それぞれの法要の趣旨がありますが、併せて法要の中で先亡諸霊の供養を行いますので、塔婆をあげてご供養するのが良いと思います。時間があつたらなるべく参加するようにして下さい。お土産もあります。(つづく)

## 編集後記

十二月一日から一週間、暁天念仏が行われました。暁天念仏とは、近隣の青年僧侶たちが集まり、日常のお念仏に加えて気分新たに一所懸命にお念仏をするものです。善照寺でも、まだ夜も明けぬうちから大勢の若い僧侶が集まり、迫力あるお念仏が本堂に響きわたりました。暁天念仏の最終日は六時間にも及ぶお念仏をします。お坊さんたちも、さすがにこの時ばかりは大変そうです。しかしのどを枯らしながらもすがすがしそうな様子でした。

私も日常の生活に追われ、ついにお念仏がおろそかになっていました。暁天念仏の様子を端から見ていて、僧侶になるための修行中のことを思い出し、心身ともに引き締まる思いでした。本年はもっとお念仏と共に過ごしていきたいものです。皆様、本年もよろしくお願ひします。

合掌(副住職室 久美英)